



2020・9・21

第 386 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

「敵基地攻撃能力」への新たな挑戦阻止を

安保法制 5 周年、各地で行動

【東京都／九条の会東京連絡会】 安全保障法制の強行から 5 周年を前に、九条の会東京連絡会は 18 日、憲法 9 条の意義などを議論した集会『「アベ政治」の継続許さない』を、豊島区のとしま区民センターで開き、約 140 人が参加しました。学識経験者らが、集団的自衛権行使を容認した安保法制をあらためて批判しました。

法政大学の五十嵐仁名誉教授は「安保法制によって、憲法 9 条改定が不要になったといわれるほど、戦争をやれる仕組みができた。だが国の平和や安全は軍事ではなく、外交によるソフトパワーで守るよう転換すべきだ」と訴えました。九条の会事務長の小森陽一・東大名誉教授は「市民の動きが政党や政治家の考えを変えることがある」と市民運動の意義を語りました。

参加した西東京市の無職飯倉多佳子さん（78）は「安保法制で日本の憲法は壊された。このことを忘れないために 19 日は国会前に行き、反対の意思を表明したい」と話しました。

改憲右派がズラリの菅新人事

安倍政治の全面的継承をとる菅新内閣が誕生しました。

その顔ぶれをみると、党人事で総務会長に佐藤勉・衆院憲法審査会長、政調会長に下村博文・自民党改憲推進本部長という改憲シフトをしき、内閣でも右派改憲派の議員がずらりとならんでおり、目を引くのが、日本会議国会議員懇談会、神道政治連盟等に所属する議員が首相を含め 21 人中 19 人をしめていることです。

とくに「敵基地攻撃能力」保有の関係では、その主要政策を決定する国家安全保障会議は、その 4 閣僚会議を構成する首相のほか外務相、防衛相、官房長官の 3 閣僚もすべて同懇談会のメンバーです。とくに岸信夫防衛大臣は就任直後記者会見で「敵基地攻撃能力」保有について「今年末までにあるべき方策を示し、速やかに実行に移す」と述べています。

集会では国分寺九条の会、いたばし九条の

会の地域の取り組みや教科書採択に関する取り組みについての報告もありました。

(「東京」9月19日等より)

地区内の九条の会が共同でアピール
【仙台市宮城野区／6地域九条の会】 宮城野区内の「6地域九条の会」は19日、「19日行動」の街頭アピールをしました。

横断幕やのぼり、プラカードで「憲法9条を守ろう!」「さようならアベ政治」「変えようアベ政治」と掲げて、通行人に改憲反対の署名ビラを配布。出浦秀隆事務局長は「憲法と絶対に相いれないこの戦争法を受け入れることはできません。若者をアメリカの戦争に巻き込むことは決して許されません」と訴えました。

行動には13人が参加し、「憲法を守り、不要な軍事費を減らしてコロナ対策に充てるべきです」「9条を守り、これからも戦争しない国であることを願っています」と声を上げました。

自転車を降り「頑張ってね」と声援をおくってビラを受け取った60代男性は「首相が代わっても同じことをやるって言うのなら、意味がないよね」と話しました。

県内野党の代表がリレートーク
【愛媛県／安保法制の廃止を求める愛媛の会】 「愛媛の会」などは19日、「安保法制(戦争法)強行採決5年9・19抗議集会」を松山市で開催しました。繁華街にある会場の広場には、県内の国政野党の代表者をはじめ、無所属の地方議員、労働組合や市民団体から約100人が集まりました。

「愛媛9条の会」の井口秀作代表幹事は

開会あいさつで、8年前の自民党総裁選で安倍前首相を担ぎ出し、「史上最悪」の長期政権を生み出した菅氏の政権こそ危険であり、早期退陣に追い込む必要性を訴え。また「成立の過程から、説明から、その後の展開すべてが最悪」と安保法制を批判。安倍政権下で立ち上がった新しい仲間とともに、継続したたたかいをと呼びかけました。

立憲民主党の浅湫(あさぬま)和子県議、共産党の片岡朗衆院1区候補、社民党県連の越智勇二常任幹事、新社会党県本部の島本保徳書記長がリレートーク。5年前、国会での数の暴力で押し切り、安保法制を成立させた安倍政権とそれを継承する菅政権を「許すことはできない」と強調。市民と野党の共闘で政権奪取をめざすたたかいを呼びかけました。

集会後の「9条パレード」(愛媛9条の会主催)には約90人が参加し、商店街を練り歩きました。

安倍疑惑を隠した人々の新政権批判

【宮城県／宮城県内九条の会連絡会】 県内九条の会連絡会は8日、9月とは思えない猛暑の中、仙台市の中央商店街で「憲法9条を守ろう」と訴える宣伝をしました。

横断幕を掲げ、「九条の会」と書いたそろいのベストを着て、ビラを配りながら交代でマイクを握りました。

「安倍首相は病気を理由に辞任しましたが、数々の疑惑の追及とコロナ対策などの政策の行き詰まりで政権を投げ出したものです。後継も、誰がなっても改憲の姿勢に変わりはありません。世論の力で憲法9条を守りましょう」と訴えると、多くの市民

がペンをとりました。

「安倍首相は、命とくらしを守らなかった」と話す塩釜市の小幡正子さん（74）は、「継ぐ人は、たぶん安倍首相の疑惑を率先して隠した人でしょ。疑惑の真相を国民の前ですべて明らかにしないと、まともな政治にはならない」と語気を強めました。

「9の日」宣伝で平和アピール

【青森市茶屋町／9条を守る茶屋町の会】

9条を守る茶屋町の会の恒例の毎月9日の街頭宣伝は連日続く猛暑の中で横断幕など掲げながら行われました。

マイクを持った門倉昇会長は「安倍首相は退陣することになり次の総裁が3人立候補しているがいずれも安倍政治を継承する姿勢であり自民党政権が続く限りは9条改憲・壊憲の企ては続くでしょう。それを最終的に阻止するには、「九条の会」の役割を増々発展させなければなりません」と訴えると、車窓から手を振る人など10数年続けて来た街宣も街では馴染んでいます。

（9条を守る茶屋町の会 門倉昇）

ピースウォークに共感の声

【札幌市西区／琴似・山の手9条の会等】

札幌市西区の琴似と山の手9条の会、戦争をさせない札幌西区民会は9日、「9・9ピースウォーキング」を実施しました。

午前9時9分、「憲法を守ろう」ののぼりを先頭に出発。安倍政権が戦争法を国会で強行した瞬間の「主権者は忘れない」の写真、「憲法をまもれ」のボードを掲げ、約1・1キロを「戦争する国づくりをやめさせよう」とアピールしました。道行く人たちに

声をかけ憲法前文を掲載したビラを手渡しました。

「戦争は大嫌い。しちゃだめですよ。戦争しないと誓った憲法を守らないと大変なことになる」と、自転車を降りてビラに目を通す50歳の男性が声をかけていきました。

「安倍首相は辞任表明をしましたが、改憲をさせなかったのは国民の声と運動です」「3人の首相候補は、戦争法を強行した時の安倍政権の閣僚でした。誰がなってもアメリカいいなり、財界中心の政治が続きます」「コロナ対策や雇用、倒産など国民の切実な問題を議論する国会を直ちに開くべきです」とハンドマイクで訴えました。

憲法にもとづく平和外交こそ

【静岡県／静岡市憲法9条の会連絡会】

静岡市憲法9条の会連絡会は9日、憲法9条を守ろうと葵区呉服町で定例の「9の日」行動にとりくみました。参加した11人が「安倍9条改憲NO！改憲発議に反対する緊急署名」を呼びかけると、自ら寄ってきて署名する人が多くいました。

合戸政治・すえひろ9条の会代表らは、安倍政治の7年8カ月は、民意を無視し「戦争する国」へ突き進んだ年月だったと説明。

「改憲策動や憲法違反の敵基地攻撃能力の保有はやめるべきです。市民と野党が力をあわせ、安倍政治からの転換、平和外交や憲法9条にもとづく政治の実現が求められています」と語りました。

署名した55歳の女性は「安倍首相は改憲まっしぐらだったけど、憲法で銃を持たず戦争しないできた。変えられては困ります」と話しました。61歳の男性は「北朝鮮など

仮想敵国をつくって、軍事費をどんどん上げるようなことになってはいけない。軍事費を下げ、社会保障に使うよう国会で議論してほしい」と話しました。

平和への思いをこめて鐘つき

【富山県高岡市／高岡地区 9 条の会】

高岡地区 9 条の会（藤田政治代表）は 9 日、高岡市の二上山にある「平和の鐘」で、憲法 9 条を守り、平和を願う思いを込めて鐘をつきました。

「9 条」にちなみ、毎年 9 月 9 日午前 9 時 9 分に鐘つきを行い、今年で 14 回目。会員ら 22 人が 9 時 9 分になると「9 条を力強く生かすぞ」「子どもたちに平和な未来を」「9 条は世界の宝」など、それぞれの思いを叫びながら鐘の音を響かせました。

街頭の宣伝に中学生も参加

【神奈川県海老名市／えびな・九条の会】

えびな・九条の会は 12 日、海老名駅前で 48 回目の「生かそう憲法」行動を実施。

初参加の農業青年や 88 歳の男性を含む 11 人がスタンディング宣伝。手作りポスターに記された「憲法生かす新時代をみんなの力で」「だれもが安心して暮らせる社会を」「PCR 検査の拡充を」と訴えました。

森関夫さんは妻のカイ子さんと参加。通行人から「がんばってくださいとの激励があった」と笑顔で話しました。他の参加者も「沖縄・辺野古問題のポスターを見た女性から話しかけられ、基地の押し付け反対で話が弾んだ」「テニスの大坂なおみ選手の活躍もあり、『人種差別反対に連帯』のポスターには強い目線が」など感想が出ました。

厚木市の中学 3 年の男子生徒 3 人が飛び入りで加わり「消費税増税 NO！必要なのは減税」などのポスターを掲げました。

戦争体験引き継ぐ取り組み重視

【北海道旭川市／あさひかわ西地域九条の会】

あさひかわ西地域九条は 2006 年 2 月に発足、街頭宣伝やコンサート、講演会デモと、多彩な活動をおこなってきました。

中でも力を入れているのが、戦争体験や平和への思いを市民に語ってもらう『平和への伝言』冊子づくりです。印刷から製本まですべてメンバーで行い、これまで 12 集刊行してきました。

結成当初は、教育基本法の大改悪、改憲手続法の改悪をはかった安倍第 1 次政権の最中でした。多くの人たちに戦争の本質を伝えなければならないと、広く戦争体験の話聞くこととし、この年の 9 月、「戦争体験を語る・聞く会」を開くと、40 人が集まり、戦争体験を話したいとの思いがあふれ、時間がまったく足りませんでした。そこで運営委員が参加者を訪問、聞いてまわった結果まとまったのが『平和への伝言』。

今年 8 月発行の第 12 集 2 分冊には、樺太から引き揚げた宮田汎さん（治安維持法国家賠償要求同盟道本部会長）の聞き書きを載せています。

『平和への伝言』を次の世代の先生方が読んでくれたら」と最近まで稚内市で校長をしていた石澤正紀さん（61）。「稚内は終戦後、樺太からの引き揚げ者が多く降りた場所。悲惨な体験を後世に残していくのは私たちの使命です」と力を込めました。（「赤旗」北海道・東北版 9 月 11 日より）